



# イズム超え、いざ農業へ

鳥取ガス株式会社

取締役社長

## 児嶋祥悟

ベルリンの壁が破れ、ソ連が解体して社会主義が揺らぎ、資本主義が地上を謳歌するかにみえた。しかし、アメリカのサブプライム・ローン問題に発した世界金融危機や、石油投機などによる市場原理主義の経済は世界を大混乱に陥れた。

一国追従と新資本主義に導かれた構造改革は破綻し、経済・福祉・教育など、私たちの生活を脅かす格差拡大が起きている。政治はいつまで惰眠を貪り、国民を巻き添えにするつもりなのか。主義主張（イズム）の争いではない、新しい社会システムが望まれる。

中小企業を踏み台にした工業輸出で外需を偏重し、ささやかな市民生活を犠牲にした内需の軽視は、いま根本的な大転換を求められているのだ。この切り替えができれば、自給率なき日本は、亡国の運命をたどらないとも断言できない。

わずか六〇余年前の日本は「飢餓時代」だった。島国に資源はなく、食糧自給率も四〇%を割って、この国のなにをどうして守ろうというのか。戦前の妄信的な国防論や精神論など真つ平ご免。イズムを超え、自然と共生する農業へ回帰すべき時がきたのである。